

研修で  
学校が  
変わる

# 特別支援教育ステップアップ研修② 特別支援教育支援員研修②（選択B） 学校司書研修（選択B）

まとめ



## 「一人一人が輝く学校のために」

令和2年8月18日（火）

講師 中尾 繁樹 氏（関西国際大学 教授）

【研修のねらい】 ■ 個別の指導計画の作成について理解を深め、個に応じた指導・支援の充実を図る。

### 個別の指導計画作成においての子どもをみる視点

- ① 子どもが示す問題は、家庭と学校と社会という器の中で継続的に起こる
- ② 「困った子」ではなく「困っている子」であり、子どもの発達を支援するのが「親」「教師」「医師」らの役割
- ③ 家庭・学校の成育歴を理解・想像し、二次的な要因を解くヒントを探る

### 自立活動の評価

- ① 児童生徒の発達上の視点をベースにした「何ができるようになったか」という成果を明確にする「Outcome」評価
- ② 個別の指導計画に挙げられた「目標設定と指導内容の適切さ」という指導者側の計画の妥当性を評価する「Plan評価」

【私はこの学びをこう活かす！】

#### 【特別支援教育主任】

- 自校の個別の指導計画は視点が少なく、偏ったものであることがわかった。多様な視点をもってアセスメントすることの大切さを学んだ。早速自校の個別の指導計画を見直したい。
- 私がやりたいと思ったことは以下の3点。① 支援の必要な児童一人一人に対して見取りを丁寧に。② 指導がひきつけられる活動を工夫する。③ 感覚だけでなく数値で評価して客観的な記録を取り、次につなげる。一番心に残ったのは「通常学級の中で“自立活動”の視点を持って授業をする」という言葉だった。通常学級担任にも伝えて工夫の仕方を共有できるようにしたい。
- これから個別の指導計画の評価と次の短期目標の設定をするので、講義内容を活かしたい。実態把握は指導いただいたと点でやり直しが必要だ。

【私はこの学びをこう活かす！】

#### 【学校司書】

- この研修を通して、子どもを様々な視点からしっかり見ることの大切さを改めて感じた。私が児童とのかかわりを持つのは図書館の中がほとんどだが、これからは図書館の中以外でも教育現場で働く一員としてしっかり子どもたち一人一人と向き合い、理解を深めていきたい。また、図書館の中で見られた問題行動等についても、その場しのぎの対応ではなく、担任や特別支援教育支援員の先生方とも情報を共有し同じ方向を向いて指導にあたっていきたい。
- 図書館で支援の必要な子供たちに本の貸し出しをする以外にも、進んで担任の先生方に様子を聞いたり、図書館での様子を伝えたりしたい。その中で、どのような支援が一番良いのか探っていきたい。学習においても個別対応をしっかりしていきたい。

【私はこの学びをこう活かす！】

#### 【特別支援教育支援員】

- 子どもたちがどこで困っているのか、その実態把握だけでなく背景にあるものを見つけ個別の指導計画に取り入れて活かすことが大切だということがよくわかった。たとえば、ただ「細かいところが気になる」というのではなく、「よく気がつく」とプラスの表現でとらえて認めるなど、対応を変えることができると実感した。支援員として、担任を含め多くの先生方と連携を取って対応していきたい。
- 指導しても聞いてくれないことが多くイライラすることがあった。講演をお聞きし、今までの指導は児童にあった指導になっていなかったということを感じた。工夫していきたい。

実態把握ができて、初めて授業が成立する